

| | |
|------|--------------------------------------|
| 会議名 | 令和7年度山城南地域医療構想調整会議及び 山城南地域保健医療協議会 |
| 開催日時 | 令和7年7月10日(木) |
| 場所 | 山城南保健所 講堂 |
| 出席者 | 別添出席者名簿のとおり |

○ 報告事項

1 病床機能報告について

事務局から説明(資料1)

令和5,6年度病床機能報告から山城南圏域の3病院の状況、近隣の山城北圏域の病院の状況を報告。

2 救急搬送の状況について

(1) 事務局から説明(資料2)

令和6年及び5年の搬送件数や搬送先の地域等について報告。

(2) 質疑応答

- 資料1により急性期の病床数が減少することだが、資料2により救急搬送件数も増えているが対応できるのか。(相楽医師会)

→コロナ禍以降休床している病床を減らすだけなので、大きな影響はない。(京都山城総合医療センター)

- 病床利用率が低いからか。(相楽医師会)

→急性期病床には産科、小児科が含まれるが、利用率は50~60%前後であり、上がりにくいものである。数字の問題である。また、救急車で搬送される患者以外にも救急患者を年間3,000件以上受け入れており地域の85%は賄っている。適正な医療体制を維持し続けるために減床はやむを得ない。(京都山城総合医療センター)

→救急医療について。

救急と一口で言っても様々で、重症、中等症、けが等がある。今までどおり中等症以上を責任もって受け入れる。重要なのはいつでも次に引き渡せる連携をしていくことである。(学研都市病院)

3 山城南地域における主な課題と対策の進捗状況について

事務局から説明(資料3)

令和5年度に「京都府保健医療計画」の地域版として改定した「地域における主な課題と対策」の進捗状況を説明。抜粋して地域医療連携体制の構築、救急医療、災害医療、新興感染症発生・まん延期における医療について説明。

4 2040年を見据えた地域包括ケアのあり方について

高齢者支援課から説明(資料4)

2025 年を見据えた地域包括ケア」を発展し市町村ごとに異なる地域課題への対応、伴走支援の強化をする。プロジェクトの見直しを行い、重点地域において今後必要な取組等について意見を伺っていきたい。山城南圏域では相楽東部を中心に人口減少が見込まれるため、生活支援の必要性が増すものと考えている。令和7年度には重点地域の施策体系等を検討し、協議を重ね令和8年度からモデル事業を実施する。令和9年度以降に全市町村で 2040 年を見据えた取組を実施できるように展開する。

5 かかりつけ医機能の確保に関するガイドラインについて

(1) 医療課から説明(資料5)

前回の会議で報告されたかかりつけ医機能報告制度のガイドラインが制定されたため抜粋して説明。翌年1～3月に医療機関が定期報告し、7月以降に協議の場を開催、協議をすることとなる。12月頃には協議の場の結果を公表することになった。

ガイドライン自体は厚労省のHPとよろずネットに掲載されている。

(2) 質疑応答

協議の場における構成メンバーにはだれが入るのか。薬剤師は入れるのか。積極的に参加したい。

(相楽薬剤師会)

→大変有難い。課題に合わせて誰が入るのがいいか検討していく。(医療課)

6 病床数適正化支援事業について【非公開】